

## 阿寒湖周辺域に生息する両棲爬虫類及び水生生物の生息確認調査

北海道爬虫両棲類研究会

北海道東部に位置する阿寒湖周辺域は、雌阿寒岳や雄阿寒岳などの山や阿寒湖やパンケトー、ペンケトー、オンネトーなどの湖沼群といった豊かな自然環境を有しており、シマフクロウやイトウ等の希少な動物を含め多くの野生生物が生息している。一方で、近年では特定外来生物であるウチダザリガニやアメリカミンク、オオハンゴンソウなどの外来生物が侵入・定着していることも知られている。しかし、外来生物による在来生物への影響について十分な調査は知られていない。また、在来の両棲爬虫類やニホンザリガニなどがどのような場所にどれくらい生息しているのかといった情報も少なく、1990年代以降はあまり調査が行われておらず、現状を把握するための基礎的な情報も不足していた。そこで本事業では、外来生物等の脅威から阿寒湖周辺域の豊かな森林や森林が育む水環境に生息する在来生物を保全するために、両棲爬虫類及びザリガニ類の生息現況を把握することを目的として調査を実施した。



ニホンザリガニ

調査風景

事業では、3回の現地調査（2014年6月6日～10日、8月29日～9月3日、9月12日～16日）と1回の補足調査（2014年10月14日）を延べ17日間実施した。両棲爬虫類の調査では、3種の両棲類（エゾアカガエル、ニホンアマガエル、エゾサンショウウオ）と5種の爬虫類（アオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ）の生息を確認することができた。本調査の結果は過去に実施された両棲爬虫類の調査結果と相違のないものであり、現在までに種の絶滅などが生じていない事を証明することができた。ザリガニ類の調査では、ニホンザリガニ及びウチダザリガニの生息が確認され、ウチダザリガニの侵入・定着によって在来種であるニホンザリガニが危機的な状況にあることが明らかになった。これらの結果は、今後、阿寒湖周辺域の自然環境を保全し、野生生物とのよりよい共存関係を構築していくための一助となるものであると考えられ、当初の目的を達成することができたと考えられる。



調査結果の報告会の様子（2015年1月24日）

本事業の結果については、2回の報告会を実施した。1回目は、2015年1月24日に札幌市円山動物園において一般市民（約50名）を対象として実施した。参加者からは、本業務で実施した調査の意義や得られた調査結果への賛同と賞賛が多く寄せられた。特に特定外来生物ウチダザリガニによって生息環境を奪われつつあるニホンザリガニの現状に対する反響が大きく、今後の調査方針や対策案等、たくさんの御意見・御感想が得られた。2回目は、環境省阿寒湖自然保護官事務所において環境省阿寒湖自然保護官事務所やマリモ研究室といった阿寒湖周辺域において最先端で自然環境の保全活動されている方々を対象として実施した。その際も、調査結果に対して、「素晴らしい」と評価していただき、今後のデータの共有や連携についての前向きな討論を実施できた。また、本事業で得られた調査結果については、「環境教育」といった方向においても生かしていけるという意見も得られた。本調査の結果には希少種の生息情報も含まれるため、その活用法については検討が必要であると考えるため、今後の課題としたい。

最後になりますが、本事業は前田一步園財団の御支援なしでは実施することができませんでした。この度の御支援に心より御礼申し上げます。